

小山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人間と科学Ⅱ (倫理学)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	使用しない。毎回資料を配布する。				
担当教員	上野 哲				
到達目標					
1. 科学技術時代の到来に伴う新たな研究者倫理が必要になった背景を理解できる。 2. これからの時代に必要とされる研究職としての職業倫理について説明できる。 3. 研究倫理分野の問題解決策について、卒業研究に取り組む高専5年生として、説得力を伴う持論を展開できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	科学技術時代の到来に伴う新たな研究者倫理が必要になった背景を正しく理解できる。	科学技術時代の到来に伴う新たな研究者倫理が必要になった背景を理解できる。	科学技術時代の到来に伴う新たな研究者倫理が必要になった背景を理解できない。		
評価項目2	これからの時代に必要とされる研究職としての職業倫理について正しく説明できる。	これからの時代に必要とされる研究職としての職業倫理について説明できる。	これからの時代に必要とされる研究職としての職業倫理について説明できない。		
評価項目3	研究倫理分野の問題解決策について、卒業研究に取り組む高専5年生として、説得力を伴う持論を正しく展開できる。	研究倫理分野の問題解決策について、卒業研究に取り組む高専5年生として、説得力を伴う持論を展開できる。	研究倫理分野の問題解決策について、卒業研究に取り組む高専5年生として、説得力を伴う持論を展開できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 ① JABEE (D)					
教育方法等					
概要	応用倫理学とりわけ科学技術倫理をめぐる理解を深めることで研究者／企業人としての倫理観を高めることに重点をおく。				
授業の進め方・方法	科学技術倫理をめぐるトピックを扱い、ポートフォリオを作成する。達成目標1, 2及び3について、全15回の授業を通して作成するポートフォリオで判断する。 ポートフォリオの提出は、第4講, 第7講, 第10講, 第13講後の4回とする。ポートフォリオの評価基準の概要は以下の通りである。 ●毎回の授業において設定した設問に対する考察 (予習レポート) レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の内容を理解している。(2点) [論理性] 論理的に記述されている。(2点) [持論の展開] 持論を展開している。(2点) ●3講に1回の割合で課す課題に対する考察 (長文レポート) レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の条件を踏まえている。(2点) [課題内容理解] 課題の内容を理解している。(2点) [論理性] 論理的に記述されている。(2点) [獨自性] 獨創的な視点に基づいて論述を試みている。(2点) [現実性] 現実的な考察をおこなっている。(2点) [説得力] 論理的・現実的な考察を独自の視点でおこなっている。(2点) ●ポートフォリオ全体の作成 評価基準 [体系性] 体系的に整理されて作成されている。(7点) 上記項目について、4回のポートフォリオ提出の際に点数化し、合計点 (1回2.5点満点×4回提出=合計10.0点満点) が60%以上の場合、達成とする。				
注意点	特になし。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	科学技術時代の研究者倫理 — 理想的な研究者とは —		
		2週	倫理的不正行為に着目した科学技術史の再考		
		3週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (1) 生殖技術の発展と権利の問題 —		
		4週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (2) 日本の生命観と西欧の生命観 —		
		5週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (3) スポーツとドーピング問題 —		
		6週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (4) 「性」と「身体」の問題 —		
		7週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (5) 「健康」と「標準値」の関係 —		
		8週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 生命倫理分野の問題 (6) 脳死と臓器移植 —		
	4thQ	9週	研究者の倫理的不正行為が生じる背景 — 環境倫理分野の問題 (1) 「ハード/ソフトゾーニング」 —		
		10週	倫理的な研究者になるための実践法を考える (1) — ホイッスルブローイング —		
		11週	倫理的な研究者になるための実践法を考える (2) — 似非科学との対決 —		
		12週	倫理的な研究者になるための実践法を考える (3) — 科学ジャーナリズムとの共存 —		
		13週	倫理的な研究者になるための実践法を考える (4) — サラリーマン研究者としての社会的責任 —		

	14週	倫理的な研究者になるための実践法を考える（５）－ 一般市民としての社会的責任－	
	15週	倫理的な研究者になるための実践法を考える（６）－ 軍事研究と研究資金－	
	16週	まとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	
		国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3			

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	50	0	50
専門的能力	0	0	0	0	50	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0